

## 優れた上司とは

「優れた上司になる秘訣」があるという。しかも七つの秘訣だそうだ。

Chery 1 REIMOLD著の「BEING A BOSS」から抜粋して紹介しておこう。読めば「なるほど」と納得するだろうが、実際には相当意識した努力が必要である。組織的な仕事をする上では大変重要な要素であるので、上司・部下が共に知っておくことが大事であろう。

・以下引用 -----

優れた上司とは、やるべきことが判り、自己及び部下を動機付けて、可能な限り良い仕事をさせることのできる人である。そして、自分の必要とする知識を得るために必要な時間を取り、部下がよく働くために必要とする時間と注意を与えるのである。

優れた上司になるための七つの秘訣は、次のとおりである。

- ① 専門家としての知識・技能の領域を拡げること。  
個々の部下の仕事の名称、方法、期待成果及び直面する可能性のある問題を知ることである。
- ② 部下との意思疎通（コミュニケーション）の技術を磨くこと。  
話し手と聞き手の間では、双方とも意思疎通が成立したと思っけていても、実際には障害が起きているのが普通なのである。
- ③ 熱意を涵養（かんよう）すること。  
自分の仕事を楽しみ、その有効性と重要性を信じているとすれば、その熱意は部下に自ずと伝染するものである。
- ④ 寛濶（かいかつ）な心（オープンマインド）を保つこと。  
聞く耳を持たない独裁者型上司の下では、部下はやむなくせざるを得ない仕事を最小限している。
- ⑤ 部下の実績に対して考慮を払うこと。  
部下の実績に迅速に報いよう。笑顔や握手だけでも、部下をして上司に評価されたという気持ちにさせることができる。
- ⑥ 上司に近づきやすい環境を作ること。  
まず、どんなに忙しかろうとも、常に部下各々のために時間を取っておこう。
- ⑦ 部下を尊敬すること。  
君は私にとって重要な存在だ。私も君にとって重要な存在だ。お互いに協力しあって最善を尽くそう。

----- 引用終わり

以上のことを実践する場合の方法は、先に配信した「コミュニケーションスキル」シリーズや「コーチング法」シリーズでも論述した要領のとおりであるので、もう一度読み返してもらいたい。逆に部下が「優れた上司」を期待する場合には、各秘訣の語尾を「・・・させる」に変えて実行すれば良いという発想も大事である。 以上